

## 自然体験事業

# 冬のチャレンジキャンプ～雪上キャンプに挑戦！～

### 1 ねらい

国立立山青少年自然の家周辺の冬の自然に親しむとともに、その中で思い切り雪上活動に取り組み、たくましい心身を培う。

### 2 期日

平成29年1月7日（土）～9日（月：祝日） 【2泊3日】

（ボランティア研修 平成28年12月23日（金）～24日（土） 【1泊2日】）

### 3 対象

小学校3年生・4年生

### 4 参加人数／募集人数／応募者数

23名／24名／90名

### 5 講師・スタッフ

立山ガイド協会 会長 多賀谷 治 氏

国立立山青少年自然の家職員

法人ボランティア 9名

### 6 ボランティア研修

立山ガイド協会 会長 多賀谷 治 氏

国立立山青少年自然の家職員

法人ボランティア 6名



	午前	午後	夜
12月23日(金) 1日目		☆オリエンテーション ☆テント泊準備	☆野外炊事（アルファ米） ※雪上テント泊
12月24日(土) 2日目	☆テント片付け ☆野外炊事（カートドック） ☆雪上ハイク（来拝山）	☆昼食（食堂） ☆入浴タイム ☆振り返り	

### 7 後援・協力

後援：富山・石川・新潟各県教育委員会、北日本新聞社

### 8 日程

	午前	午後	夜
1月7日(土) 1日目	☆はじめのつどい ☆グループタイム	☆基地作り（雪灯笼づくり） ※雪上テント泊準備	☆夕食（アルファ米） ☆グループタイム、雪灯笼 ※雪上テント泊
1月8日(日) 2日目	☆朝食（アルファ米） ☆雪上ハイク（来拝山）	☆昼食（来拝山山頂にて） ☆入浴タイム	☆星空観察 ☆グループタイム ※本館泊
1月9日(月) 3日目	☆テント片付け ☆グループ活動 ・チューブそり など	☆グループタイム ※振り返り ☆おわりのつどい	

### 9 参加者からの感想

- 一番うれしかったのは、来拝山登山です。雪の中での登山は初めてだったのでがんばろうと思いました。登り始めてみたら思ったよりも苦しく、つらかったです。私が苦しんでいたらグループの友達が必ず声をかけてくれました。声をかけ合うことでみんなが元気になりました。
- 雪の来拝山登山は、登っても登っても頂上に着かないのでくたくたになりました。だけど、頂上で食べた自分でにぎったおにぎりやラーメンはとてもおいしかったです。下りる時には、お尻で滑ったり、

急なところはロープにつかまって下りたりしました。この思い出はずっと忘れたくありません。

- ほかの学校の友達とテントを設営したり、登山したりしてとてもなかよしになりました。2日目の夜には「なかよし班」という名前もついてうれしかったです。
- 初めてテントを自分たちで張りました。テントを張るのはとても難しかったけれども、多賀谷先生に教えてもらいながらみんなで協力するとうまく張ることができました。そのテントの中で初めてシュラフに入って寝ました。ちょっと寒かったけれどもとても楽しかったです。またやってみたいです。
- アイス作りをがんばりました。アイスのもと作りはとても簡単だったのですが、アイスのもとを入れた雪の塊を転がすのは大変でした。でも、みんなでアイスを食べたらとても元気になりました。
- 雪灯籠づくりでは、アニメのキャラクターを作りました。みんなと一緒に作ったのでとても楽しかったです。夜にはその中にろうそくの火が灯りととてもきれいでした。
- 1日目にテントで寝る前に見た星空がとてもきれいでした。次の日に見たプラネタリウムもきれいだったけれども、本当の星空の方がすごかったです。また、こんな星空が見られたらいいなあ。

## 10 成果

- 雪上テント泊と雪の来拝山登山をメインに冬の立山の自然を味わうプログラムを、小学校3・4年生を対象に実施した。立山ガイド協会多賀谷会長を講師に招き、雪上でのテントの立て方、雪の上の歩き方など指導・助言をいただいた。小学校中学年の実態に応じたプログラムを実施することができた。
- 小学校3・4年生対象の雪上キャンプということで、トイレや食事をするためにキャンプ活動棟の利用を含め、子供たちにとって安心できるエリアを設定した。参加したボランティアからは、「夜トイレに起きた子供にも安心して対応できた」という意見を聞くことができた。
- グループタイムを1日に1回以上は設定することで、人間関係作りが充実し、活動の中で子供たち同士のつながりを深めていくことができた。
- 2年連続の小雪であったが、雪が少ないなりの活動を展開することができた。来拝山登山では、冬コースを歩くことはできなかったが、雪の積もった山道を登ったり、緩やかな下り坂をしり滑りで降りたり楽しみながら取り組んだ。他にも雪の上にテントを張ったり、アイスクリームを作ったり冬ならではの活動を楽しむことができた。冬の立山青少年自然の家の魅力を改めて感じるとともに、小雪時のプログラムの開発やフィールドの開拓ができるのではないかと感じた。

## 11 今後の課題

- 1m以上の雪があることを前提として行った事業であるが、2年連続で雪が少なかった（昨年度40cm、今年度50cm）。ダイナミックな雪中活動を展開するために確実な雪が見込める2月に行ったり、メインの活動である雪上テント泊と雪の来拝登山だけに絞った1泊2日のプランに変更したりすることも考えられる。3、4年生の発達段階を考えると、雪の中、テントで1泊するだけでも充実感は得られると考える。
- 今回、多くの活動を行ったこともあり、ゆとりが少なかった。子供たちに体験させたい事、感じさせたい事をねらいに沿って厳選していく必要がある。
- 自然の家にある使いやすい6人用冬テントが少ない（6張）ことから、国立登山研修所から7張借用した。前室の空間が大きく作れる登山研修所のテントを使用させていただいた。多賀谷講師の助言のもと雪上であることからコンパネを使わず、テント内に大きなウレタンのマットを敷き、その上にロールマットを敷いてシュラフで寝た。使い勝手はよかったが当日放射冷却で寒さが厳しかったこともあり、シュラフを2つ使うとよいなどの助言もいただいた。今後生かしていきたい。
- 日程が成人の日と重なっているために、参加ボランティアを集めるのに苦労した。日程、集め方の工夫が必要であった。

